

茨城県第7採択地区 令和6年度使用教科用図書 採択理由書【小学校】

| | | 教科名 | 国語 |
|-----------------------------------|---|--|----------|
| | | 発行者の番号・略称 | 2・東書 |
| | | 教科書名 | 新編 新しい国語 |
| 調査項目 | 観点 | 調査結果 | |
| 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成するために、どのように配慮されているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・掲載されている二次元コードから、前の学年で学習した内容を振り返ることができるようにすることで、児童が獲得したい言葉の力を自覚できるとともに、螺旋的・反復的に言葉の力を身に付けられるような配慮が見られる。 ・巻末に、「学習で使う言葉」「言葉の広場」のページをまとめて掲載することで、児童が何を学んだのかを適宜振り返ったり、自分の表現で使える語彙を増やしたりできるような配慮が見られる。 ・学習モデルとなる人物の吹き出しやノート例を具体的に掲載することで、児童の学習活動や思考・表現を支援するような配慮が見られる。 | |
| 内容の程度及び取扱いについて | 主体的・対話的で深い学びの実現のために、どのような工夫が見られるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全領域で学習の流れを「見通す」、「取り組む」、「ふり返る」の3つのステップで統一することで、児童が学習の見通しをもって取り組めるような工夫が見られる。 ・全ての教材において、最後に児童同士で伝え合う学習活動を設定することで、対話的な学びを促す工夫が見られる。 | |
| 内容の配列・分量 | 教材の配列や分量には、どのような特色があるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の系統性を意識した教材の配列となっている。「読むこと」と「書くこと」の教材の間に「言葉の力」というページを配置することで、児童が「読むこと」の学習で身に付けた力を「書くこと」の学習で有機的に活用できるような配列の特色がある。また、「情報のとびら」というページで、「情報の扱い方」について第2学年以降系統的に学習できる配列になっている。 ・情報の扱い方に関する事項の引用の学習を第4学年で扱っており、出典の記載の仕方やかぎ(「」)の使い方に触れたのち、次の「書くこと」の単元で学習できる配列の特色がある。 | |
| 表記・体裁 | 用語や写真、使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・文字フォントは独自開発の教科書体を中心に使用しており、文字を書く指導に役立てることができる。分かち書きは、2学年の下巻まで採用しており、文字を読むことを苦手とする児童への配慮が見られる。 ・「読むこと」の教材では、単元の扉のページに大きなイラストと本文中の印象的な文を掲載することで、児童の学習意欲を高めるような工夫が見られる。 ・文学作品においては、必要に応じて、時代背景の説明を脚注として付すことで、内容理解の助けとなるような工夫が見られる。 | |

採択理由

地域や学校及び児童の実態に応じ、発達段階を考慮しつつ、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導ができるよう、特に次の点が他社と比べ留意されて編集されている。

- ① 「学習の手引き」のページにおいて、学習モデルとなる人物の吹き出しやノート例を具体的に掲載することで、児童の学習活動や思考・表現を支援するような配慮をして編集されている点。
- ② 全ての領域で、学習の流れを「見通す」、「取り組む」、「ふり返る」の3つのステップで統一することで、児童が学習の見通しをもって、安心して学習に取り組めるよう工夫して編集されている点。
- ③ 今日、特に大事とされている「情報の扱い方」について系統的に学習できる配列して編集されている点。

| | | 教科名 | 書写 |
|--|--|--|-------|
| | | 発行者の番号・略称 | 38・光村 |
| | | 教科書名 | 書写 |
| 調査項目 | 観点 | 調査結果 | |
| 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について | 各教科等の学習活動や日常生活に生かすことができる書写の能力を育成することができるようにするために、どのように配慮がされているか。 | ・「書写広げたい」の教材では、学習の進め方や書き方のポイントとともに、リーフレットやパンフレットなどが掲載されており、児童が習得した書写の能力を他教科等の学習活動や日常生活に活用できるような配慮が見られる。 ・歴史的遺物とともに漢字や日本の文字の歴史について取り上げ、社会科の学習と関連付けて学習できるような配慮が見られる。 ・第6学年では、「書写ブック」のページがあり、第1学年から第6学年までの書写の学習で獲得した力を日常生活に広げることができるような配慮が見られる。 | |
| 内容の程度及び取扱いについて | 児童に用紙の規格、書式、筆記具について関心をもち、主体的な学習を促すために、どのような工夫が見られるか。 | ・様々な筆記具の特徴を紹介することで筆記具への関心がもてるような工夫が見られる。 ・学校行事等に関連させ、プログラムや招待状などを書く学習活動を通して、児童が目的に合わせた筆記具や用紙の特徴について考えられるような工夫が見られる。 | |
| 内容の配列・分量 | 教材の配列や分量には、どのような特色があるか。 | ・巻末に学年のまとめのページがあり、児童が1年間の学習を振り返るとともに、身に付けた力を確かめることができるようになっている。 ・児童が書写の学習の必要性を実感することができるよう、日常生活とのつながりをもたせた学習活動を豊富に設定している。 | |
| 表記・体裁 | 用語や写真、使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。 | ・学習のはじめに書写体操を、学習の終わりに整理体操を入れ、文字を書くときの姿勢や書写が身体を使って書く技能学習であることを意識できるような工夫が見られる。 ・運筆に番号を付けて示したり、動物のキャラクターを用いて字形の整え方のポイントを示したりすることで、児童が楽しく、興味をもって学習できるような工夫が見られる。 | |
| 採択理由 | | | |
| 地域や学校及び児童の実態に応じ、発達段階を考慮しつつ、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導ができるよう、特に次の点が他社と比べ留意されて編集されている。 | | | |
| ④ 第6学年に「書写ブック」のページを設け、第1学年から第6学年までの書写の学習で獲得した力を日常生活に広げることができるような配慮をして編集している点。 | | | |
| ⑤ 学校行事等と関連させ、プログラムや招待状などを書く学習活動を通して、児童が目的に合わせた筆記具や用紙の特徴について考えられるような工夫をして編集している点。 | | | |
| ⑥ 児童が書写の学習の必要性を実感することができるよう、日常生活とのつながりをもたせた学習活動を豊富に設定して編集している点。 | | | |

| | | 教科名 | 社会 |
|--|---|---|----------|
| | | 発行者の番号・略称 | 2・東書 |
| | | 教科書名 | 新編 新しい社会 |
| 調査項目 | 観点 | 調査結果 | |
| 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について | 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力を養うために、どのように配慮されているか。 | ・疑問や気付き、問題点等を掲載することで、多角的に考える力を養うように配慮されている。まとめでは、様々な立場からの意見や分かったことが掲載されている。 ・本時の課題に関連する写真やイラスト、「〇〇さんの話」などの資料を数多く掲載している。写真が効果的に掲載されていて、学習内容の様子が分かりやすく説明されている。 | |
| 内容の程度及び取扱いについて | 社会的な見方・考え方を働かせるために、どのような工夫が見られるか。 | 社会的な見方・考え方を働かせるために、資料のどのような点に注目していけばよいかを、4つの視点(空間・時間・関係・比較)を前提にし、児童がどの視点で考えればよいか、図で明確にしている。 | |
| 内容の配列・分量 | 教材の配列、分量には、どのような特色があるか。 | 学習したことを活かして社会的な事柄に参画したり、提案・発信したりできるように、学習段階「いかす」を設け、適切な配当数で学習を進めることができるような特色が見られる。 | |
| 表記・体裁 | 用語や写真、使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。 | ・二次元コードで、単元ごとの導入動画が視聴できたり、学習の成果や思考をまとめるためのワークシート等が活用できたり、子ども一人一人が自ら学んでいくための工夫が見られる。 ・学習場面が大きく示されたり、最初の単元の学習問題作成の後に「学習の進め方」が記載されていたり、順番にページを見ていけば、学習の展開が円滑に進むように構成が工夫されている。 | |
| 採択理由 | | | |
| 地域や学校及び児童の実態に応じ、発達段階を考慮しつつ、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導ができるよう、特に次の点が他社と比べ留意されて編集されている。 ⑦ 社会的な見方・考え方に関して、空間、時間、関係、比較といった視点について、4つの視点を示しており、見方・考え方を働かす上で、多くの視点からアプローチしている。 ⑧ デジタルコンテンツが充実している。他社が教科書にある資料や授業で使うワークシート、調べ学習時に使える外部リンクを示しているのに対し、東書は、それらに加え、導入時に使用し学習意欲を高める動画が充実しており、個別最適な学びに適応している。 ⑨ 学習したことを社会で活用しようとする「いかす」段階を設けており、内容も充実している。 | | | |

| | | | |
|--|---|---|---------------|
| | | 教科名 | 地図 |
| | | 発行者の番号・略称 | 46・帝国 |
| | | 教科書名 | 楽しく学ぶ 小学生の地図帳 |
| 調査項目 | 観点 | 調査結果 | |
| 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について | 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力を養うために、どのように配慮されているか。 | ・各学年で学習する内容など、社会的な見方・考え方を働かせながら地図帳を活用して解決する「地図マスターへの道」という問題が数多く掲載され、社会的事象について多角的に考えることができるよう配慮している。 ・QRコードを掲載し、クイズや動画、アニメーションによる解説、地図の資料等を利用できる。QRコンテンツの内容が豊富である。 | |
| 内容の程度及び取扱いについて | 社会的な見方・考え方を働かせるために、どのような工夫が見られるか。 | ・必要な情報に絞った中学年対象の地図と豊富な情報を載せた高学年対象の地図を掲載し、学年ごとの学習内容に合わせた効果的な学習ができる工夫がされている。 ・土地の高さや使われ方による色分けと絵記号を活用し、地域の特色を捉えられるようにしている。 | |
| 内容の配列・分量 | 教材の配列、分量には、どのような特色があるか。 | ・自然災害に関する地図の掲載に加え、防災マップづくり等があり、防災意識の向上等 SDGsに配慮した配列になっている。 ・最初に、地図の使い方に関連する作業課題が提示されており、それらを通して身に付くよう工夫されている。 | |
| 表記・体裁 | 用語や写真、使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。 | ・二次元コードでは、デジタル地図や統計資料が用意され、調べたい地域や必要な情報を選択し、コンピュータを使った作業がしやすく、地図学習に自力で取り組むことができる工夫が見られる。 ・索引は、目的別で4色(赤青緑黒)で表記されている。キャラクターが対話形式で説明する「さくいんの見かた」が掲載され、子どもが理解しやすく、自分で活用しやすい工夫がされている。 | |
| 採択理由 | | | |
| 地域や学校及び児童の実態に応じ、発達段階を考慮しつつ、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導ができるよう、特に次の点が他社と比べ留意されて編集されている。 | | | |
| ⑩ 高学年用の地図だけでなく、中学年対象の地図を掲載している。発達段階や授業内容によって、使用する情報は違う。中学年対象の地図を掲載することで、中学年が無理なく学習できるようになっている。両方掲載している点で優れていると考える。 | | | |
| ⑪ デジタルコンテンツが充実している。コンピュータ上で活用できるデジタル地図や資料が豊富に用意されており、プレゼンテーション資料で使用することや児童が自力で学習を進めることも可能である。 | | | |
| ⑫ 自然災害に関連する地図が充実している。身近に存在する題材として、児童の学習意欲を高めると考える。また、SDGsにも関わる防災意識の向上においても大切だと考える。 | | | |

| | | 教科名 | 算数 |
|--|--|--|--------|
| | | 発行者の番号・略称 | 4・大日本 |
| | | 教科書名 | たのしい算数 |
| 調査項目 | 観点 | 調査結果 | |
| 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について | 数量や図形などについて理解を図り、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けられるように、どのような配慮がされているか。 | ・重点となる時間を「じっくり深く学び合おう」と設定し、授業の流れ・数学的活動の流れを丁寧に示して、見方・考え方を働かせながら思考力・判断力・表現力を伸ばすことができるよう工夫されている。 ・学習の振り返りがしやすいように、「前学年までのまとめ」の設定、単元の導入前に復習問題、各時間の適用問題と適宜練習問題、単元末の再確認問題など充実した問題量があり、習熟の程度に応じて学習できるよう配慮されている。 | |
| 内容の程度及び取扱いについて | 算数における見方・考え方を働かせるために、どのような工夫が見られるか。 | ・図や表、式などから考えを説明する問いが多く設定してある。考えを比較することで多くの見方・考え方に触れる工夫が見られる。 ・巻頭に、見方・考え方を振り返るページがあり、児童が自ら記入していくことで、後の学習に活用しやすいように工夫されている。 ・単元末に、振り返りとして学習感想が設定されている。自己評価にもつながり、学びの自覚を促すきっかけとなる工夫が見られる。また、それを書かせることで評価の資料とすることもできる。 | |
| 内容の配列・分量 | 教材の配列、分量には、どのような特色があるか。 | ・単元内の問題は、知識・技能を定着させるために豊富に用意されており、授業時間を考慮した分量となっている。 ・巻末補充問題では、難易度が優しいものから難しいものまで用意され、実態に応じて弾力的に扱える内容と分量になっている。 | |
| 表記・体裁 | 用語や図、表、使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。 | ・比較検討場面では、複数の考え方が実際の板書のようにイラストで示されているため、授業と重ね合わせやすくなっている。また、それぞれの考えに対する客観的な意見も示されている。 ・数直線図の書き方が丁寧に載っている。表をうめる際には、空欄が学年に応じて増えていき、自ら表を作成できるようになっている。 ・ページごとに単元名が載っていて、探しやすい。 | |
| 採択理由 | | | |
| 地域や学校及び児童の実態に応じ、発達段階を考慮しつつ、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導ができるよう、特に次の点が他社と比べ留意されて編集されている。 | | | |
| ⑬ 主体的・対話的で深い学びを実現するため、重点となる時間を「じっくり深く学び合おう」と設定し、授業の流れ・数学的活動の流れを丁寧に示して、見方・考え方を働かせながら思考力・判断力・表現力を伸ばすことができるよう工夫されている。 | | | |
| ⑭ 様々な意見を比較検討する場面で板書のイラストを用いており、児童たちは実際の授業と重ね合わせながらさまざまな意見にふれ、算数における見方・考え方を働かせるように工夫されている。 | | | |
| ⑮ 単元末に、単元全体を振り返ることができるよう学習感想を書かせるようにし、評価の資料とすることができるようにするとともに、自己評価をすることができるようにしている。 | | | |

| | | 教科名 | 理科 |
|---------------------------------|--|---|----------|
| | | 発行者の番号・略称 | 2・東書 |
| | | 教科書名 | 新編 楽しい理科 |
| 調査項目 | 観点 | 調査結果 | |
| 学習指導要領の教科の目標を達成するために扱う内容の選択について | 観察、実験などを行い、問題解決の力を養うためにどのように配慮がされているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元導入では、「レッツトライ」を設け、自由に発想し、児童の思いから「主体的な学び」をスタートすることができる。 ・観察、実験では、流れを紙面一面で大胆に「一段組み」で表記することで明確で見やすく、「学びのライン」を用いることで児童が迷わず段階を踏んで問題解決まで到達できるよう配慮されている。 ・ふりかえりのページが単元毎にあり、何を学んだかが見やすい。 | |
| 内容の程度及び取扱いについて | 理科における見方・考え方を働かせるために、どのような工夫が見られるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・キャラクターであるパンダ先生が分かったことや疑問を発言することで、児童の理科における見方・考え方に繋げている。 ・各学年で身につけるべき「理科の力」では対話的な学びの参考になる児童の発言例をイラストで強調している。また、デジ活というQRコンテンツを使って話し合いの例を示している。 ・「広げよう！理科の発想」や「理科の世界 探検部」、QRコンテンツ「理科の広場」では、児童が学習したことを生かして自分で学びを広げていけるような内容や資料を掲載している。 | |
| 内容の配列・分量 | 教材の配列、分量には、どのような特色があるか。 | <p>○配列について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎となる単元を先行するとともに、季節的に適当な時期に扱うことができるよう配慮している。 ・最後の単元に、その学年でつけさせたい力が発揮できるような配列になっている。 <p>○分量について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間で10時間程度の余裕をもつことができるようにし、体験活動や発展的・補充的な学習の時間を確保できるようにしている。 | |
| 表記・体裁 | 用語や写真、使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の各項目など全体的に文字が大きく表示されており、見やすい。 ・色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色及びデザインについて工夫がされており、全ての児童に見やすく、分かり易い紙面になっている。 ・QR コードで読み取るデジタル資料には、動画だけでなく、教科書の軽量化のために削除した関連資料や学習に活用できるワークシートも豊富に掲載されており、メニュー画面も活用しやすくなっている。 ・QR コンテンツには、友達と対話する際の対話例があり、下位学年や他単元で学んだ内容を振り返り、学習内容の確実な定着をサポートするなどの工夫がなされている。 | |

採択理由

地域や学校及び児童の実態に応じ、発達段階を考慮しつつ、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導ができるよう、特に次の点が他社と比べ留意されて編集されている。

- ⑯ 児童の主体的な学びが重視される中で、理科専門外の教員が指導する場合でも、児童の興味・関心を高めたり、児童主体の問題解決学習が実現できたりするように、単元の最初のページに、既習事項や生活との関連付けを図る内容や、児童の気付きを大切にしたり、学習課題を意識させたりする内容を入れたりして工夫している。
- ⑰ 学校現場での1人1台端末の積極的な活用に配慮し、タブレットの活用が有効な場面にはタブレットマークを入れて活用を促したり、QRコードで読み取るデジタル資料には、関連動画だけでなく、ワークシート、定着・活用問題など、豊富にコンテンツを掲載することで、児童の興味・関心に応じて学習を広げたり・深めたり、オンライン授業にも対応したりできるように工夫している。

| | | 教科名 | 生活 |
|-----------------------------------|---|--|----------|
| | | 発行者の番号・略称 | 2・東書 |
| | | 教科書名 | 新編 新しい生活 |
| 調査項目 | 観点 | 調査結果 | |
| 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について | 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現するために、どのように配慮されているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりの場面が多く掲載されており、身近な生活に関わる見方・考え方へと生かしやすい内容となっている。 ・気づきを確かなものとしたり、関連付けたりしていくための、気付いたことを表現し交流する学習活動が、随所に掲載されている。 ・観察して気付いたことを表現し考えるためのヒントをまとめた「かんさつずかん」が設けられている。 ・「見付ける」「比べる」「たとえる」など、気付いたことを基に分析的・創造的に考えるための多様な学習活動例が、写真や挿し絵、吹き出し、表現作品などで示されている。 ・生き物目線のダイナミックな写真や挿絵等で身近な物や自然と関わる姿が多様に示されている。 | |
| 内容の程度及び取扱いについて | 主体的・対話的で深い学びの実現のために、どのような工夫が見られるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・『主体的・対話的で深い学び』が実現されている場面を、「学びをふかめる」のコーナーで、具体化している。「気づきの質の高まり」の例示のみならず、児童が対話をしながら学びを深めている姿が具体的に示されている。 また、深い学びを促進するための学習環境なども具体的に例示されている。 ・表現や交流活動を通して個別の気づきが相互に関連付く児童の姿が、写真や挿絵、吹き出しなどで具体的に表現されている。 ・上巻・下巻を通して、キャラクターがそれぞれの観点で成長していく様子が描かれている。 ・学びのプロセスがわかりやすい。 | |
| 内容の配列・分量 | 教材の配列や単元構成、分量には、どのような特色があるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・季節の流れに沿って単元の構成がされている。 ・季節単元では、自然や公共施設、まちの様子が例示されており、季節の変化によるまちや人々の様子の変化を視覚的に捉えやすくなるよう構成されている。 ・他教科で身に付けた資質や能力を生活科の学習の中で生かす場面が例示されている。 ・植物の成長の様子が一目でわかるように用紙の幅を変えたパノラマページで表現している。 ・650点を超えるQRコンテンツが掲載されている。 ・見開きでダイナミックな単元の扉ページで児童のやってみたい気持ちを喚起している。 ・動物の世話がいきものとなかよしの中盤頃に配置されている。 ・活動の「やくそく」が掲載されており、安全指導に配慮されたものとなっている。 | |

| | | |
|-------|---------------------------|--|
| 表記・体裁 | 表記・表現等について、どのような工夫が見られるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活科で育成すべき資質・能力が見えるよう、紙面を構造化し、活動のめあてと、主な評価基準が一目でわかりやすく、児童にとって目的をつかみやすい表現となっている。 ・板書や掲示物の挿絵が多く、参考となる資料が掲載されている。 ・楽しくめぐりながら植物の生長順序を捉えることができる変型判ページや実物大の動植物図鑑などが設けられている。 ・小単元名、本文、手洗いマーク、やくそくなどが同じ位置に配列されている。 ・文節改行や、分かち書きなど、すべての児童が学びやすいよう工夫されている。 |
|-------|---------------------------|--|

採択理由

地域や学校及び児童の実態に応じ、発達段階を考慮しつつ、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導ができるよう、特に次の点が他社と比べ留意されて編集されている。

- ⑱ 生活科における「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、「学びをふかめる」のコーナーが設けられている。コーナーの中では、気付きを関連付けたり、視点を変えて捉え直したりする「気付きの質の高まり」の具体例が学習プロセスで例示されている。また、「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かしながら、児童が表現・交流活動を行い、学びを深めている姿を例示することにより、対話的で深い学びの姿が示されている。さらに、深い学びを促進するための学習環境も具体的に例示されている。
- ⑲ 生活科で育成すべき資質・能力が分かりやすく具体化されている。学習指導要領で育成が目指されている資質・能力の三つの柱の「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」を、教科書の紙面の中において、吹き出しや表現作品で分かりやすく具体化している。また、単元ごとに、活動のめあてと、主な評価基準が一目でわかるように表記されている。さらに、人々との関わりの場面が多く掲載されており、身近な生活に関わる見方・考え方へと生かしやすく、生活科の目標を達成しやすい内容となっている。これにより、児童自身が生活科の目標を捉えやすくなると共に、資質・能力の育成を確実に図りながら、主体的・対話的で深い学びに迫ることができるように配慮されている。
- ⑳ 単元の構成、紙面構成、資料の掲載を工夫することで、児童の思いや願いを生かした、主体的な学びを支えるものとなっている。単元の構成では、季節の流れに沿って単元の構成がされており、自然や公共施設、まちの様子が視覚的に捉えやすくなるよう構成されている。また、他教科で身に付けた資質や能力を生活科の学習の中で生かす場面が例示されている。紙面構成では、単元の導入部分である、扉のページを見開きでダイナミックな構成とし、質の高い写真を掲載し、児童の意欲を喚起するものとなっている。また、単元に関係するこれまでの経験や既存の知識を学習内容と結びつけるための写真を掲載することで、スムーズな導入が図れるよう配慮されている。資料の掲載も豊富で、650点を超える豊富な QR コンテンツを掲載しており、一人一人の興味・関心を刺激し、学習意欲を高めることができるようになり、主体的な学びを支えるものとなっている。

| | | 教科名 | 音楽 |
|--|--|---|--------|
| | | 発行者の番号・略称 | 27・教芸 |
| | | 教科書名 | 小学生の音楽 |
| 調査項目 | 観点 | 調査結果 | |
| 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について | 感性を働かせ音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや美しさを見いだせたりするように、各教科書では内容についてどのような配慮がされているか。 | 音楽を形づくっている要素を中心に各領域に関連付けた題材構成になっていて、音や音楽のよさや美しさに気付いたり見付けたりしやすくなるよう配慮されている。リズム学習を「常時活動」として扱うことで、知識・技能の向上とともに音楽表現の発想へと関連させる工夫がされている。1人1台端末を使って、歌唱や鑑賞の参考音源を聴いたり、デジタルツールを使ってプログラミング的思考を養ったりすることができる。デジタルワークシートでは音を聴いて表現を試行錯誤しながら音楽づくりをすることができる。 | |
| 内容の程度及び取扱いについて | 音楽的な見方・考え方を働かせるためにどのような工夫が見られるか。 | 学習内容を「見つける」「考える」「歌う」「演奏する」「つくる」というアイコン表示にして「どのように学ぶか」を明確に示すことで、児童の主体的な活動を引き出す工夫が見られる。キャラクターの吹き出しが学習のヒントとなり、対話的な学びを促す工夫が見られ、児童の気づきや思考を深める役割を果たしている。中・高学年では、「チャレンジ」「ステップアップ」など、さらに表現方法や知識を広げるための学習も示されている。 | |
| 内容の配列・分量 | 題材の配列や分量には、どのような特色があるか。 | 児童の発達段階を考慮した題材設定や、ねらいに即した教材が各領域分野ごとに配列されており、系統的に学びが積み重ねられるようになっている。表現と鑑賞がバランスよく構成されており、また、各学年に応じて段階を踏みながら、確実に技能を習得できるような教材を扱っている。教材の分量は、各学年の学習活動に応じて弾力的に増減できるよう配慮されている。 | |
| 表記・体裁 | 用語や写真、使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。 | 白を基調としたデザインになっており、楽譜や歌詞、活動文については、無地や単色の部分に配置するなど読みやすくなるよう配慮されている。「ムーブのへや」で二次元コードから曲を聴いたり資料や動画を見たりすることができ、児童の学びを深めることができる。作曲家や作詞者の詳しい説明があり、音楽に込められた思いを考えるきっかけとなる。3年生のリコーダーの導入では、座って演奏する写真が掲載されており、児童が見て分かりやすく工夫されている。 | |
| 採択理由 | | | |
| 地域や学校及び児童の実態に応じ、発達段階を考慮しつつ、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導ができるよう、特に次の点が他社と比べ留意されて編集されている。 | | | |
| 21 題材構成について、発達段階に応じて、表現(歌唱・器楽・音楽づくり)・鑑賞の学習活動がバランスよく配置されており、6年間を通して学習を積み重ねていくことで、音楽科で目標とする資質や能力を育成することができると考えられる。 | | | |
| 22 各題材における学習活動のねらいや活動がユニバーサルな視点から分かりやすく表示され、児童が学習の見通しをもち、主体的・協働的な学びにつながると考えられる。 | | | |

23 表現の領域の「音楽づくり」の学習について、活動が明確で分かりやすく取り組みやすいこと。また、一人一台端末を使用したデジタルワークシートが充実しており、プログラミング的思考を養い、個別最適な学習につながると考えられる。

| | | 教科名 | 図画工作 |
|-----------------------------------|---|---|--------|
| | | 発行者の番号・略称 | 17・開隆堂 |
| | | 教科書名 | 図画工作 |
| 調査項目 | 観点 | 調査結果 | |
| 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について | 生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成するために、どのような配慮がされているか。 | <p>(1)A表現について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習のめあて」に示した3つの資質・能力を象徴的なキャラクターにすることで、題材のめあてを明確にする工夫がされている。また、題材における重点内容を朱書きにしたり、ページに重点内容のキャラクターを配置したりすることで、表現の活動を通して発想や構想の力が身に付くように配慮されている。 ・多様な表現の作品例やイラスト、説明付きの写真などにより、「やってみよう」という造形的な視点においての面白さやよさ、美しさなどの広がりが感じられるようにページが構成されている。また、どのように主題を表すかについて考えられるように身近な材料や用具の使い方や表し方の記載があり、必要な技能がイメージしやすくなるように配慮されている。 ・SDGs にかかわる活動や多様性にかかわる作品を取り上げることで、協働と共生、持続可能な社会への意識を高めるとともに造形感覚や感性を培えるように工夫がされている。 ・地域行事や伝統工芸、学校行事などと組み合わせた取り組みを掲載することで、友人と協力したり関わったりしながら豊かな情操を養えるよう配慮されている。 ・タブレット端末で QR コードを読み取り、アイデアシートを用いることで柔軟な発想や構想ができるように学習を支える仕組みができています。また、授業の導入や材料を紹介するコンテンツもあり、創造的についたり、表したりすることができるようになっている。 <p>(2)B鑑賞について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の書名(1・2年下であれば「みつけたよ」)が造形表現の楽しさや面白さに繋がるとともに、形や色、自分の思いや友達の思いなど、個性や創造性など鑑賞のポイントとしても捉えられるように工夫がされている。 ・各学年「みんなのギャラリー」というページを設けることで、身近な美術作品・工芸品や地域の特色に触れられるようになっている。それぞれの地域にある形や色、そのよさを感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を広げられる工夫がされている。また「つながる造形」というページを設けることで、教室、学校行事などの生活の中の造形において自分の見方や考え方を深められるようになっている。 ・タブレット端末を使って友達の作品のよい所を「見る」、身近な物の面白い形やきれいな色の写真を「集める」「保存する」、芸術作品を「調べる」、感じたことや思ったことを「表す」といった例示がされている。 | |

| | | |
|--------------------|---|---|
| 内容の程度及び 取扱いについて | 主体的・対話的で深い学 びの実現のためにどのよ うな工夫が見られるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・題材名や製作中の児童の表情の画像からわくわく感を表し、やってみた いという意欲につなげている。 ・「学習のめあて」に示した3つの資質・能力をキャラクターで表し、キャラ クターが学習のヒントを投げかけたり、「学習のめあて」に即した具体的な アドバイスをしたりすることで、学習を深められるように工夫している。 ・製作や鑑賞の中で話合いの場面を多く取り入れ、話合いながら発展的 な表現につなげたり、協働と共生を意識した活動を多く提示したりしてい る。 |
| 内容の配列・分 量 | 題材の配列や分量には、 どのような特色があるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・題材配列は、各学年で発達段階に応じて、実践に適切な季節及び行事、 内容(造、絵、彫、工、鑑)や学習指導要領で扱われる用具・材料によっ て、カリキュラム順に配列されている。題材と題材のつながりを意識した 年間指導計画になっている。 ・題材数は低学年が46、中学年が44、高学年が39である。 ・教科書とデジタルコンテンツを一体化して考え、QRコードから読み取る ことで、授業で実際に使えるコンテンツを適切に入れている。(はじめに・ 授業の前に・用具の使い方・作品・ぐるっと・ワークシートなど)また、端末 の活用場面を題材紙面に反映させている。 ・材料技法の紹介は「学びの資料」として掲載され、低学年が26、中学学 年が18、高学年が17ある。 ・SDGs に関わる内容は、SDGs マークとともに、題材に関わる SDGs の取り組みや作品を全ての学年で紹介している。また、「外国の友達の作 品に」として、各学年で海外の児童作品を掲載していたり、「つながる造 形」では、国際交流や福祉に関わる内容を取り上げていたりするなど、多 文化共生に配慮した構成となっている。 |
| 表記・体裁 | 用語や写真、使用上の便 宜等については、どのよ うな工夫が見られるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・写真の大小によって作品の迫力や活動の様子を強調して示したり、擬 音語を用いて創作活動をイメージしやすくしたりして、児童の創作意欲に 繋がることを期待される。 ・題材ごとに一番大切にしたいめあてを色と下線で強調しているので、指 導者も学習者も意識しやすい。 ・フォントやルビにUDを取り入れて、多くの児童が見やすくなるように配 慮されている。 ・関連される他教科や、そこでの活動例が示されていて、児童の学びの広 がり期待できる。 ・巻末の「学びの資料」に、基本的な技能や注意点がまとまっており、学習 の参考にすることができる。 |

採択理由

地域や学校及び児童の実態に応じ、発達段階を考慮しつつ、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導ができるよう、特に次の点が他社と比べ留意されて編集されている。

24 製作過程の中で、発想や構想の力が働いている場面を多く掲載したり、発想の広げ方についても吹き出しの言葉からサポートしたりするなどの配慮がある。また擬音語を用いて、創作活動をイメージしやすくするとともに、写真の大小を区別することにより、作品の迫力や工夫した活動の様子を強調して示すことができているので、児童の創作意欲が高まることが期待される。

25 協働と共生を意識した活動を多く提示し、製作や鑑賞の中で、話し合いの場面を多く取り入れている。また、地域行事や伝統工芸、学校行事などと組み合わせた取り組みを掲載することで、友人と協力したり関わったりしながら豊かな情操を養えるように配慮されている。

26 題材配列は、実践に適切な季節及び行事、内容や学習指導要領で扱われる用具・材料を考慮し、発達段階に応じて配列されており、題材と題材のつながりを意識した指導を実践できる。また、文字のフォントやルビに、ユニバーサルデザインを取り入れて、多くの児童が見やすくなるように配慮されている。

| | | 教科名 | 家庭 |
|-----------------------------------|--|--|----------|
| | | 発行者の番号・略称 | 2・東書 |
| | | 教科書名 | 新編 新しい家庭 |
| 調査項目 | 観点 | 調査結果 | |
| 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について | 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うために、どのように配慮されているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を生活に結びつけ、他者との交流を図りながら日常生活の問題を見だし、解決できるよう、全学習項目で問題解決的な学習を繰り返し行う内容になっている。 ・学習した知識や技能を基に生活の中で生かす視点を入れ、全ての大題材で家族や地域、家庭生活と結びつくよう配慮されている。 ・長期休暇を利用して、生活の課題解決に取り組む「生活を変えるチャンス！」を設け、学んだ知識・技能や育成された思考力・判断力・表現力等を活用し、解決していくことができるよう配慮されている。 ・自分の成長を実感できるポートフォリオのページが設定されており、家庭で挑戦したいことを、「次へのチャレンジ」に記録することで、家庭での実践につなげられる工夫がされている。 | |
| 内容の程度及び取扱いについて | 生活の営みに係る見方・考え方を働かせるための工夫や主体的・対話的で深い学びの実現のための工夫が見られるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭科の窓」を設け、見方・考え方の視点を意識して、学習が進められるようにし、各所に参照できる活動を掲載している。 ・各題材の学習の流れは、問題解決的な学習が展開できるよう3ステップで構成されている。ステップ1・2では、「話し合おう」「調べよう」「やってみよう」などの活動を載せている（課題発見・課題解決）。さらに、ステップ3では、学びを統合し、「深めよう」として活動を載せている（評価・改善）。各ステップで周りの人と交流しながら考えを深められるように工夫している。 ・すべてのステップの始めに学習の「めあて」、終わりにそれに呼応した「ふり返ろう」を設け、こまめに学習を振り返り、学習内容が確実に定着するように配慮されている。 ・発達段階に応じた基礎的・基本的な実習や製作例を掲載して、児童の意欲が高まるよう工夫されている。 | |
| 内容の配列・分量 | 題材の構成や教材の配列にはどのような特徴があるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活をよりよくする観点から、全体を通して、学習指導要領の内容A「家族・家庭生活」の視点、内容C「消費生活・環境」の視点を取り入れて課題を考える工夫がされている。 ・内容C「消費生活・環境」では、「持続可能な社会の構築」を重視し、第4大題材で独立して扱っている。また、特集ページ「SDGsでつくる私たちの未来」で、持続可能な社会の実現に向け、自分でできることを考え、実践に結びつけるよう工夫されている。 ・基礎技能「いつも確かめよう」では、その多くを5学年で学習できるよう配分している。調理実習や製作実習など5学年で学んだ技能を6学年で再度使うことで、より確実な定着を図るようにしている。 | |

| | | |
|---|-----------------------------------|--|
| | | <p>・実習題材について、系統性を図りながら、実践例を構成している。〈製作例〉小物作り→きんちゃく袋→トートバッグ また、調理においては、生活面で活用できるような題材を例示して、学習内容の定着を図っている。</p> <p>・5学年と6学年で関連する内容をできるだけ同時期に配置するとともに、15の大題材をユニット型で示して、学校や地域に応じたカリキュラムに組み替えやすいようにしている。</p> |
| 表記・体裁 | 誰も見やすく、使いやすくするために、どのような配慮がされているか。 | <p>・調理実習や製作実習における器具・用具の扱い方、作業場の安全、衛生面など、安全に注意すべき点を丁寧に解説し、「安全マーク」を付して、注意喚起をしている。</p> <p>・UD教科書体を使用している。簡潔な表現を用いたり、視覚的効果を高めるために写真を大きく掲載したりすることで、主体的な学習を促す配慮がされている。</p> <p>・一つの実習を見開きで概観でき、それを見ながら実習ができるようにすることで、児童が学習しやすくなるための工夫が見られる。</p> <p>・デジタルコンテンツの活用が有効な調理や製作に関する内容には「Dマーク」が示されており、授業で活用しやすい工夫が見られる。</p> <p>・児童の手や体の巧緻性に配慮し、作業する手のアップや姿勢の写真等を豊富に掲載し、左利きの例も取り上げるなど、特別な支援を要する児童への配慮が見られる。</p> <p>・巻末資料「いつも確かめよう」には、生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能がまとめられており、手をのせて練習できる実寸写真を掲載するなどの工夫が見られる。さらに、色調が鮮明に再現される紙が使用され、写真等が見やすい。</p> |
| 採択理由 | | |
| <p>地域や学校及び児童の実態に応じ、発達段階を考慮しつつ、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導ができるよう、特に次の点が他社と比べ留意されて編集されている。</p> <p>27 全学習項目で問題解決的な学習が繰り返し行える構成になっている。</p> <p>28 学習を振り返って自分の成長を実感できる「成長の記録」を収載し、家庭で挑戦したいことを記録でき、家庭での実践につなげる工夫もされている。</p> <p>29 本文・イラスト・写真・図表の配分が適切であり適量であること、かつ関連をもたせて構成されている。さらにその写真や図表等が鮮明で見やすい。</p> | | |

| | | 教科名 | 保健 |
|-----------------------------------|--|---|----------|
| | | 発行者の番号・略称 | 2・東書 |
| | | 教科書名 | 新編 新しい保健 |
| 調査項目 | 観点 | 調査結果 | |
| 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について | 生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育てるために、どのような配慮がされているか。 | <p>○4ステップで1時間、1と2の間に学習課題がある構成になっている。「ステップ1(気づく・見つける)」→「ステップ2(調べる・解決する)」→「ステップ3(深める・伝える)」→「ステップ4(まとめる・生かす)」の構成で、学習目標を達成しやすいような配慮がみられる。</p> <p>○「調べる・解決する」の場面では、実験の様子やイラストの操作、重要な語句などが、QRコードからリンクでき、体験的に活動に取り組めるような配慮がみられる。</p> <p>○基礎的・基本的な知識を本文に簡潔にまとめ、重要な事項については太字で表され、知識の定着を図る配慮がみられる。</p> <p>○発問や写真、生活の自己チェックをすることで課題を発見し、課題解決に向けて、調べたり、話し合ったりする等の活動が設定され、学びを深める配慮がみられる。</p> <p>○「深める・伝える」の場面では、話し合い活動や記述が多く取り入れられ、思考・判断・表現の能力の育成を図る配慮がみられる。</p> <p>○「まとめる・生かす」の場面では、記述スペースを豊富に設けている。またQRコンテンツでワークシートにまとめることができ、知識の定着及び思考力・判断力・表現力を育めるような配慮がみられる。また、次の時間の学習へのヒントが示されており、興味関心をもって次の学習へ取り組めるような配慮がみられる。</p> <p>○資料で運動領域との関連を示し、対処法の実習では、わかりやすいイラストを提示して、主体的に取り組めるような配慮がみられる。</p> | |
| 内容の程度及び取扱いについて | 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、どのような工夫が見られるか。 | <p>○ステップ1からステップ4までの活動を通して、課題解決に向けた調べ学習や話し合い活動が毎時間設定されていて、話し合いの気づきや発見したことが記述できるような配慮がみられる。</p> <p>○児童の気づきを大切に活動から課題を提示することで学習に対する興味・関心を高め、より主体的に学習に取り組めるようになっている。</p> <p>○まとめる・生かす学習では、重要な語句を確かめながらこれからの生活を振り返る記述欄があり、主体性を高め、深い学びを実現するための工夫がされている。</p> | |
| 内容の配列・分量 | 教材の配列、分量には、どのような特色があるか。 | <p>○学習指導要領の配列に合わせ、基本的に1時間4ページで構成されている。1ページ目に身近な問題を明示して課題を見つけ、次の見開き2ページで課題解決に向けた活動、4ページ目でまとめという流れで掲載している。</p> <p>○自力解決する場面と話し合っって考えを深める場面で量のバランスがとれている。活動することが各ページで示されており、「今は何をやる活動なのか」が一目見て分かるという特色がある。</p> | |

| | | |
|--|-----------------------------------|--|
| 表記・体裁 | 用語や写真、使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。 | <p>○UD 教科書体で読みやすく、また重要語句は太字で表記され分かりやすい。当該学年配当漢字のみならず必要に応じてルビふり表記されている。</p> <p>○イラストや写真を活用し、身に付けたい事項が大きく取り上げられ課題を視覚的に捉えやすくなっている。</p> <p>○記入欄は、項目立てられていて記入しやすい。また、選択肢は見やすく、意見交流しやすくする工夫もみられる。</p> <p>○資料は適度な量と内容で、表やグラフも適宜配置されており、分かりやすい。</p> <p>○デジタル教材が簡単に利用でき、児童の理解を助ける工夫がみられる。</p> |
| 採択理由 | | |
| <p>地域や学校及び児童の実態に応じ、発達段階を考慮しつつ、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導ができるよう、特に次の点が他社と比べ留意されて編集されている。</p> <p>30 4つの項目を総合的に見て、一番バランスよく作成されている。6つの教科書ともそれぞれ特徴があり、工夫されている部分もたくさんあるが、内容、紙面構成トータルで考えると、東京書籍の教科書が最もふさわしいと考える。</p> <p>31 デジタル教材が充実している。どの出版会社のものデジタル教材には力を入れているが、東京書籍の教科書がより豊富にコンテンツを導入している。このことで、児童の知りたい、調べたいという学びや探究に向かう意欲につながるのではないかと思われる。</p> <p>32 東京書籍の教科書は、教師の指導の視点からも活用しやすい教科書だが、それ以上に児童の学びを促す教科書になっている。また、自分で考え自分で判断し、今後の行動に結びつけられるような構成となっており、生涯にわたり学習する基盤を培うことにつながると考える。</p> | | |

| | | 教科名 | 外国語 |
|--|---|---|---------------------------|
| | | 発行者の番号・略称 | 2・東書 |
| | | 教科書名 | NEW HORIZON Elementary |
| 調査項目 | 観点 | 調査結果 | |
| 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる力を養うために、どのような配慮がされているか。 | 各単元の Our Goal が明確であるため、児童は目的、場面を意識した上で学習を進めることができる。音声に慣れ親しむところから始まり、聞く、話す、書く活動のバランスが良く、スモールステップで学習を積み重ね、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる力を養うように、配慮がされている。 | |
| 内容の程度及び取扱いについて | 主体的・対話的で深い学びの実現のために、どのような工夫が見られるか。 | 各単元に Over the Horizon という外国語やその背景にある文化に対する理解を深めるコーナーがあり、児童の見方・考え方を働かせるための工夫が見られる。また、絵辞典では3・4年『Let's Try!』で慣れ親しんだ言語材料を用い、6年の巻末には中学校の学習内容に触れる場を設け、各学年へ円滑に接続できるような工夫が見られる。 | |
| 内容の配列・分量 | 教材の配列、分量には、どのような特色があるか。 | 「自分のこと」、「世界、地球について」そして、「小学校の思い出、将来の夢」という配列で、児童が、身近なことから徐々に視野を広げながら徐々に発達段階に沿って、言語活動を行うことができる特色がある。チャンツや歌を利用し、言語材料をまとめ、表現活動を精選して配列している。 | |
| 表記・体裁 | 用語や写真、使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。 | 英語の文字認識のつまずきに配慮した UD 書体を使っている。また、色覚の多様性への配慮として、特別支援教育の専門家による検証を行っている。チャンツやシング、絵辞典において言語材料や言語活動の様子を具体的にイメージするために、効果的にイラストや写真が使用されていたり、使いやすいコミュニケーションカードが付属されていたりといった工夫が見られる。 | |
| 採択理由 | | | |
| 地域や学校及び児童の実態に応じ、発達段階を考慮しつつ、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導ができるよう、特に次の点が他社と比べ留意されて編集されている。 | | | |
| 33 聞く、話す、書く、発表する活動のバランスが良く、自分の考えを伝え合う活動をスパイラルに繰り返し、基礎的な力が養えるよう配慮されている。 | | | |

- 34 3・4年生の『Let's Try!』で慣れ親しんだ言語材料を振り返る構成になっているほか、小学校の英語をまとめる活動を巻末に行ったり、中学校の文法につまずきを解消するページを用意したり、各学年への円滑な接続ができるような工夫が見られる。
- 35 歌とチャンツを効果的に活用し、単元の活動の構成が精選され、目的や場面、状況等に応じて児童が既習事項を選択し表現できるようなコミュニケーション活動が盛り込まれている。

| | | 教科名 | 道徳 |
|---|---|---|-------|
| | | 発行者の番号・略称 | 2・東書 |
| | | 教科書名 | 新しい道徳 |
| 調査項目 | 観点 | 調査結果 | |
| 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について | 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるために、どのような配慮がされているか。 | 登場人物の気持ちを深く考えられる定番教材や、「いじめ」「情報モラル」「SDGs」などの現代的な課題を扱う教材を通して、自己の生き方について考えを深められるように配慮されている。 | |
| 内容の程度及び取扱いについて | 「考え、議論する道徳」の実現のために、どのような工夫が見られるか。 | 学びを広める3つのデジタルコンテンツ、考えを可視化する心のメーター等の思考ツールや役割演技を取り入れた問題解決的な学習のページを設けることで、「考え、議論する道徳」の実現の工夫が見られる。 | |
| 内容の配列・分量 | 教材の配列、分量には、どのような特色があるか。 | 掲載教材数は 35 で、現代的な課題に取り組む5つのユニットがある。いじめ防止に関わる3つのユニットは、学校全体でいじめ問題に向き合うことができるよう、全学年同じ時期に設定されていることに特色がある。 | |
| 表記・体裁 | 用語や写真、使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。 | AB判でUDフォントの教科書体、カラーUD、QRコンテンツが採用されている。また、挿絵や写真に多様な人々が登場し、ダイバーシティを受け入れる態度が自然と養えるように配慮されているところに工夫が見られる。 | |
| 採択理由 | | | |
| 地域や学校及び児童の実態に応じ、発達段階を考慮しつつ、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導ができるよう、特に次の点が他社と比べ留意されて編集されている。 | | | |
| 36 登場人物の気持ちを深く考えられる教材や日常生活とのつながりを示唆する教材、問題解決的な内容の教材などがバランスよく配置され、多面的な話合いを通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てることができるように配慮されている。 | | | |
| 37 いじめ防止に関して「人間関係」「生命尊重」「自己肯定感」の三つをユニット化し、全学年同じ時期に配当することで、学校全体でいじめ問題について多面的・多角的に考え、徐々に自分自身を見つめることができるように配慮されている。 | | | |
| 38 自分の考えを可視化する教具を付属させたり、対話を促す体験的な学習活動を取り入れたりするなど、「考え、議論する道徳」を実現し、豊かな道徳性を育めるよう工夫されている。 | | | |

採択上の留意事項

- ① 種目ごとに障害の程度が比較的軽い児童生徒の場合を指す「A 型」、障害の程度が比較的重い児童生徒の場合を指す「B 型」の2つの型に分けて教科用図書を選定した。
- ② 茨城県教育委員会の示す資料を参考に、「A 型」は、「検定済教科書当該学年用」及び「検定済教科書下学年用」から主に選定をし、「B 型」は「文部科学省著作教科書特別支援学校知的障害者用」(以下、「☆本」とする。)及び学校基本法附則第9条に定める「一般図書」から主に選定することを基本とした。
- ③ 一般図書については、次の点を考慮して教科用図書を選定した。
 - (ア) 児童生徒の障害の種類・程度、能力・特性に最もふさわしい内容(文字、表現、挿絵、取り扱う題材等)の図書が適切であること。
 - (イ) 可能な限り体系的に編集されており、教科の目標に沿う内容を持つ図書が適切であること(特定の題材又は一部の分野しか取り扱っていない参考書、図鑑類、問題集等の図書は適切ではない。)
 - (ウ) 上学年で使用する図書や、採択する他教科の図書との関連性も考慮すること。
 - (エ) 価格については、前年度の実績を考慮するなどし、高額なものに偏ることがないようにすること。
 - (オ) 「令和5年度用一般図書契約予定一覧について」(令和5年2月22日付け事務連絡文部科学省初等中等教育局教科書課)を参考にしつつ、それ以外の図書も含めて最も適切なものを採択すること。
 - (カ) 種目ごとに複数冊・複数出版社の図書を採択すること。

各教科の教科用図書選定理由及び選定結果

- ① 国語、算数・数学については、「A 型」は、日常生活に必要な基本的知識・技能の習得し、生活に活用しようとする態度を育てるため、内容が系統的・発展的に構成されている検定済教科書当該学年用または検定済教科書下学年用を、児童・生徒の実態に合わせて選択できるようにした。ただし、下学年用を選択する場合、小学校第1学年では下学年用が得られないため、当該学年用を使用し、第2学年まで使用する。「B 型」は、児童・生徒の実態に合わせて☆本を選定した。
- ② 書写については、「A 型」は、生活に必要な書き方を系統的に指導するため、検定済教科書当該学年用を選定した。また、「B 型」は、児童生徒の能力や発達段階を考慮し、検定済教科書下学年用を選定した。ただし、小学校第1学年では下学年用が得られないため、当該学年用を使用し、第2学年まで使用する。
- ③ 音楽については、「A 型」は、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中で音や音楽に興味や関心をもって関わる態度を育成するため、内容が系統的・発展的に構成されている検定済教科書当該学年用を選定した。「B 型」の場合は児童・生徒の実態に合わせて☆本を選定した。中学校器楽については、生徒の実態に合わせて「A 型」・「B 型」とともに検定済教科書当該学年用を選定した。
- ④ 小学校の社会、理科、生活、図画工作、家庭、保健については、児童の実態や教科の系統性を踏まえ、各教科における基礎的素養を養うため、「A 型」の場合は検定済教科書当該学年用を選定した。また、「B 型」の場合はより具体的な内容を備えた一般図書を選定した。
- ⑤ 中学校の社会、理科、美術、保健体育については、生徒の実態や教科の系統性を踏まえ、各教科における基礎的素養を養うため、「A 型」の場合は検定済教科書当該学年用を選定した。また、「B 型」の場合はより具体的な内容を備えた一般図書を選定した。
- ⑥ 特別の教科である道徳については、自立した人間として生きるための基盤となる道徳性を養うため、児童・生徒の能